

前田鉄工、生産2.3倍

E V向けモーターシャフト

NC旋盤・産口ボ導入

【名古屋】前田鉄工所（名古屋市中川区、前田基樹社長）は、電気自動車（EV）の駆動モーター向け部品を増産する。約5000万円を投じ、12月にも本社併設の工場にオークマ製の数値制御（NC）旋盤2台やマシニングセンター（MC）、ホブ盤、産業用ロボットを設置。車載モーターの基幹部品であるモーターシャフト（出力軸）の生産能力を現状比約2・3倍の月産7000個に引き上げる。付加価値の高いEV向け部品の供給力を増強し、収益基盤を底上げする。

次世代事業の柱に育成



前田鉄工所はEV向けモーターシャフトの加工体制を増強（同社の既存設備）

前田鉄工所は自動車を中心に、建機、農機向けトランスミッションやエンジン部品を手がける。バルブなどの油圧部品も加工・製造しており、月200種類・20万個という多品種量産に対応できるのが強みだ。このほど、新規事業としてEV向けモーターシャフトの加工・生産を始めたが、需要の高まりを受

け年内の設備増強を決めた。

MCはブラザー工業製、ホブ盤はカシフジ製、産業用ロボットではフアナック製を導入する計画だ。

モーターシャフトは自動車メーカーからの支給材を調達し、同社が加工する。工程は複数回の旋盤加工とMCによる穴開け、ホブ盤での羽切加工などを経て、洗浄し出荷となる。複雑な加工工程だが利益率も比較的高く、車の電動化が加速することから、今後の事業の柱に育てていく。

同社は自動車向け変速機に搭載する歯車も加工・製造しているが、歯車とモーターシャフトの加工割合を現状の9対1から、将来的には5対5にするなどで収益力の多様化につなげる。